

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2016年度 共同研究成果報告書〔研究資源活用型〕

2017年 月 日 提出

1. 研究課題名	
昭和初期の祇園祭山鉾巡行に関する研究 (英文表記: Study on the Gion festival in early Showa era)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
川塚錦造(かわつかきんぞう)	公益財団法人菊水鉾保存会
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
佐藤弘隆(さとうひろたか)	立命館大学 文学研究科 院生
猪田浩市(いのだこういち)	公益財団法人菊水鉾保存会
佐藤銀一(さとうぎんいち)	公益財団法人菊水鉾保存会
加藤充朗(かとうみつお)	公益財団法人菊水鉾保存会
矢野桂司(やのけいじ)	立命館大学文学部 教授

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
---

(様式)

長江家住宅に残された昭和初期の映像資料には、昭和初期の祇園祭の姿を映した写真や動画が豊富である。これらは戦前の祇園祭の姿を現在に伝える良質な資料である。研究では、これらの資料を研究会メンバーで共有し、閲覧することで昭和初期の山鉾巡行について学び、将来への山鉾行事の継承の参考とする。

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

山鉾の巡行順や懸装品の特徴より本映像資料は昭和4年と昭和6・7年に撮影されたものと確認された。当時の囃子方や車方などの各担い手の巡行中の動き方を現在と比べると異なる点が多くみられた。本資料は現在の山鉾行事の当事者からみても戦前期の山鉾行事を現在に伝える貴重な資料だということが再確認された。また、背景に映し出される当時の京都市都心の街並みや見物人の動きも詳細に記録されており、今後の京都市都心のまちづくりや山鉾行事の継承のあり方を検討する際の参考となった。